



ブラジルの伝統の踊り「リボンダンス」

イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：500千円（平成28年度）

フェスタ・ジュリーナ na SUAC 2016

目的・趣旨

本イベントは、県西部地域在住のブラジル人の子どもたちを招待してフェスタ・ジュリーナ（7月の祭り）を本学で開催し、本学学生や市民がブラジル文化に触れるとともに、子どもたちが将来の進路先として大学に親しむ契機とすることを目的に、日伯交流協会との共催で開催された。

日時・場所

平成28年7月9日 午前11時から午後4時
静岡文化芸術大学 学生食堂（雨天の為）

体制

（実施代表者）文化政策学部 国際文化学科 教授 池上重弘
（実施分担者）文化政策学部 国際文化学科 教授 イシカワ エウニセ アケミ

共催・後援等

（共催）日伯交流協会
（後援）静岡県、浜松市、在浜松ブラジル総領事館、（公益）浜松国際交流協会

内容

フェスタ・ジュリーナは、ブラジルの伝統的な祭りである「6月の祭り」（フェスタ・ジュニーナ）になぞらえたもので、ブラジル風の飾り付けを施した会場で、参加者が伝統的な踊り「クワドリリーヤ」や「リボンダンス」を楽しむイベントであった。



ポルトガル語チラシ



多言語パンフレット

結果・成果

2014年度に開催した第1回に続き、今回は2回目の開催となった。あいにくの大雨（当日午前には浜松地方に大雨警報が発令）で、昼過ぎまでは客足も伸びず、一時はどうなることかと心配したが、雨が上がった午後からは日本人、ブラジル人合わせて約200名の来場があった。

十数名のブラジル人学生が学ぶ本学は、定住ブラジル人の子どもやその保護者にとって憧れの進路のひとつであり、本学のブラジル人学生たちはロールモデルとして、ブラジル人コミュニティと本学の橋渡し役になりうる。本イベントでは、本学に在籍するブラジル人をはじめとする定住外国人学生たちの案内で、英語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語で解説する「キャンパスツアー」を実施した。実際に多言語キャンパスツアーの需要があったのはポルトガル語とスペイン語だけで、フィリピン人や中国人の来場者がなかった。この点は今後の広報の大きな課題である。

楽しい行事の機会に大学進学を果たしたロールモデルとなる定住外国人学生たち（ブラジル人、フィリピン人等）と直に接する機会を設けることで、日本の大学を知ってもらい、進学に向けた情報提供とともに進学の動機付けを図ることを目的としたフェスタ・ジュリーナは、外国人の定住化が進み、大学進学を希望する外国人の子どもや保護者が増加している現況に対しての、本学の特色を生かした地域貢献活動となった。



実行委員の学生



ポルトガル語でのキャンパスツアー